



中里中学校の地区生徒会と中里小学校の児童たちがゲームで交流した「中里まつり」

広報
No.648

させぼ



広報させぼ 編集長
「キューちゃん」

特集 新方式のごみ有料化制度

2 ~ 5 p

今月の主な内容

自動車リサイクル法、市町村合併など	6 ~ 9 p
市民の広場	10 ~ 11 p
施設だより、イベント	12 ~ 13 p
歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド	22 ~ 23 p
九じろうの取材日記	24 p

11月
2004 November

PUBLIC RELATIONS SASEBO



来年で発足30周年
佐世保音声訳の会は、視覚障害者のために情報紙や文芸誌などを録音テープなどに吹き込むボランティア団体です。
市視覚障害者協会が県立点字図書館に委嘱して朗読奉仕員を募集したのが始まりで、会が発足してから来年で30周年を迎えます。創立当初は、八幡町の福祉会館

九じろうの取材日記

佐世保音声訳の会



テープ編集のためふれあいセンターに集う会員の皆さん

録音の苦勞と楽しみ
福祉会館の録音室の広さは約1坪で、録音装置と一人が入れるほどでした。
「最初は防音装置もなく、車の騒音や人の声が筒抜けで苦勞しました」と設立当初からの会員の松尾倭枝さん。ふれあいセンターは、旧NHK佐世保放送局の建物をそのまま利用しているため防音装置も完備されています。
吹き込み作業は骨の折れる仕事で、辞書を片手にふりがなを付け、人名や地名などは、図書館で調べたり直接電話で確かめたりします。

「マイクの前に座るまでが大変で、まず口を動かす体操と顔面体操の後、発生練習をし、やっと録音に入ります。声の調子は体調によっても違います」と会員の佐々木喜美枝さん。月1回の研修会にも欠かさず参加しています。
広報させぼなど情報紙は、会員が各ページを分担して、家に持ち帰り録音します。家では、生活音が入らないようにカーテンを閉め、冷暖房器具のスイッチを消して録音します。電話のベルで遮られることもしばしばだそうです。録音にはご家族の協力が欠かせません。録音したテープはふれあいセンターの録音室で編集し、間違いがないよう入念にチェックします。テープをつなぐ作業も難しく、録音機械のスイッチ音などが入らないよう気を遣うそうです。
出来上がったテープは複製され、視覚障害者に郵送されます。

編集長から「一言」

レンジで「チン」のレトルト食品では味気ない。かといって手間をかけて調理をしたら、必ず出てくるのが副産物の野菜くずです。これを上手に生かすと立派な肥料となることを小学生に教えてもらい、ただ今、庭の一部は小さなリサイクル畑に変身中です。(A)



広報功勞者表彰の賞状と記念品を手に記念撮影

みになります。障害者との触れ合いの中でその立場を思い、生きる意味を自分に問いかけることができます」と松尾さん。音声訳の会の目的は、音訳という奉仕活動を通しての心の交流にあるようです。これら長年の努力が認められ、ことし9月9日に日本広報協会から広報功勞者表彰を受けました。



広報 させぼ

平成16年11月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184
〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/サン印刷株式会社

